

事業名	競技力向上費		
細事業名	県体育協会補助金	財務コード	163801
担当部課室	教育委員会	スポーツ健康 課	競技スポーツ 担当 (内線) 8431

事業の概要

実施期間	始期 S62 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	補助((公財)山梨県体育協会)		
事業の目的	だれ(何)を対象に 本県関係のスポーツ競技者・競技団体等及び指導者	その対象をどのような状態にして 選手強化を行い、国民体育大会等において、優秀な成績をおさめることができる	結果、何に結びつけるのか 本県競技スポーツの振興及び競技力の向上
	<p>本県を代表して出場する国民体育大会や各種全国大会において、上位入賞を目指す各種競技団体、成年・少年チーム・選手を対象に、長期的視野に立ち、効果的な強化事業の助成や強化に必要な競技環境の整備を行う。また、スポーツの普及・振興に加え、スポーツの持つ価値や意義を広くアピールし、国民の生きる力の育成と活力のある社会を目指す。</p> <p>運営費(補助率:10/10)、各種会議の開催及び資料作成 合宿・交流費(補助率:3/10)、年間を3期に分けて、強化合宿・交流試合等を実施 ジュニアアスリート・トータルサポート事業費(補助率:1/3)、41競技団体を対象に、指導者・競技者育成の一貫指導体制での強化 成年チーム指定強化費(定額)、企業・大学・クラブチームから17チームを指定し、強化を図る 重点強化成年チーム強化費(補助率:3/10)、企業・クラブチームから10チームを指定し、重点強化の実施</p>		
事業の内容 主にH26年度			
根拠法令等	山梨県体育協会事業費補助金交付要綱		

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と 目標の実現度	25年度	26年度		27年度	28年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値	
活動指標 補助金の交付額	78,512千円	74,022千円	73,044千円	76,591千円	76,591千円	活動指標 目標設定の考え方 補助金上限額を目標値とする
	活動指標達成率 (実績値/目標値)	98.7 %				データの出典等 予算見積書 補助金交付実績
成果指標 国体天皇杯 得点 (男女総合成績)	856.5点 (31位)	900点 (20位台)	892点 (29位)	900点 (20位台)	900点 (20位台)	成果指標 目標設定の考え方 国体の総合成績は県の競技力を示す。天皇杯得点900点を目標とし、天皇杯順位20位台を目指す。
	成果指標達成率 (実績値/目標値)	99.1 %				データの出典等 国体年次別競技別男女総合成績 (天皇杯得点)
決算額又は予算額 (千円) うち一財額	78,512		73,044	76,591	76,591	成果指標によらない成果 選手強化は、日々の地道な努力の積み重ねであり、単年度で結果(国体出場・入賞)が出ない場合が多いが、各競技団体ごとに事業を行い、成果は着実にあがっている。また、ジュニアアスリート・トータルサポート事業の育成・強化は、多くの小中高生がスポーツに取り組むことで、青少年の健全育成に大きく寄与している。
所要時間(直接分)	20 時間		20 時間	20 時間	20 時間	
所要時間(間接分)	80 時間		80 時間	80 時間	80 時間	
所要時間計	100 時間		100 時間	100 時間	100 時間	
人件費コスト 単位:千円 (@2,048円×所要時間)	205		205	205	205	

これまでの事業の見直し・改善状況

H25年度から中学・高校上位チーム強化費を廃止し、競技団体におけるジュニア層強化へと重心を移した。

活動量と成果の判断(平成26年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか (「活動指標の達成率」等から事業の活動量を判断)		
数値判定	活動量に係る一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価が異なる場合等に記載すること
H26年度活動指標の達成率		
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上) b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満) c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)
d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)

(2) 事業は意図した成果を上げているか (「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定	成果に係る一次評価	成果に係る一次評価の考え方 必ず記載すること
H26年度成果指標の達成率		第67回国体(H24年度)は、天皇杯順位41位と低迷したが、第68回国体(H25年度)は、31位、第69回国体(H26年度)は29位と少しずつ順位を上げ、目標の900点台に手が届くところまでできており、事業は意図した成果をほぼ上げている。 また、本県選手団が国際大会や国体等の各種大会で活躍することは、多くの子どもや青少年に夢と希望を与え、山梨のスポーツ振興はもちろんだ、地域の活性化にも大きく貢献している。 S62年から始まった本事業において関わった選手の内の、これまでに23種目合計110人の日本代表選手(金メダル1人)を輩出している。
b	b	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上) b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満) c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満) d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)

見直しの必要性(平成28年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部局評価結果)		
見直しの必要性	説明	以外の判断項目
有	東京オリンピック・パラリンピックの開催が5年後に迫る中、ジュニア期から競技団体を通じて選手強化を図ることが効果的である。前掲したとおり、本事業を通じて、全日本クラス110人を輩出している。東京オリンピック・パラリンピックで活躍できるレベルの選手の育成のため、更に競技力向上支援制度を拡充する必要がある。	b

・「以外の判断項目」の欄
a: 目的の達成 b: 新たな課題への対応 c: 対象の変化 d: ニーズの変化 e: 法律・制度の改正 f: 民間等実施 g: 市町村等へ移管 h: 外部委託
i: 経費節減 j: 類似事業と統合・連携 k: 所要時間の縮減 l: プロセスの改善 m: その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説明	以外の判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする

見直しの方向(平成28年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等 「見直しの必要性」と「見直しの方向」が異なる場合は、その理由も記載すること
実施方法等の変更	国体開催競技種目の見直しにより、H28年度から新たにレスリング(女子)、自転車(女子)、ウェイトリフティング(女子)、ボクシング(女子)、7人制ラグビー(女子)及びオープンウォータースイミング(男女)が追加されるなど、選手強化対象、並びにジュニアアスリート発掘・育成・強化の対象が広がった。そのため、これらの競技の普及や強化を図っていく。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること
・見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること